

平成16年6月9日  
<4953 佐々木 朗>

## あいさつ運動と自転車

駐輪禁止の看板と自転車の戦いが続いていて、どうも軍配は自転車に上がっていたようである。解決の糸口の一つとして、小さな試みを実行してみた。

### 1. 経過

大会議室前には、3棟の駐輪場があり、学生はそこに自転車（バイク）を停めることになっている。ところが、駐輪場が狭いことと、手軽さから、多数の自転車が道路上に止められていた。

大学としては、4月の末からゴールデンウィークにかけて放置自転車の排除を学生達に通知し、放置された自転車は撤去され学内の置くに保管されている。また、学生に駐輪しないように件の迷惑駐輪場にはコーンポストを置かれた。

ところが、数日もたたないうちに以前の状態に戻り、コーンポストにより、以前よりさらに道路が狭められる皮肉な結果に終わった。

私は、学生係りに相談したところ、学内で検討すると共に、駐輪場は検討中であることを聞いた。

昨日の昼過ぎ、一番学生がピークと思われる時刻にもう一度駐輪場を回ってみたところ、道路には41台が駐輪しており、正規の駐輪場は、満車状態にあった。

### 2. 小さな実践

6月8日(火)

8時40分ごろには道路には6台の自転車が停まっていた。さらにそれよりも大会議室側にも数台の自転車が停められていたが、職員によって、道路から撤去し、見えやすい近くの駐輪場に移動した。

8時45分頃から、私は駐輪場に場に立ちあいさつ運動を始めてみた。来る学生さんたち一人ひとりに「おはようございます。」と声をかけた。どの学生さんたちも礼儀正しく、「誰だろう、変なおじさん!」と思ったかどうかはわからないが、あいさつを返してくれた。自転車については、道路に数人の学生が停めようとしたので、「雨の当たらないとにおいてね。」と声をかけたところ、みんな快く受け入れてくれた。

9時少し過ぎには、放置されていたままの自転車が残るのみで、朝、そこに停めた学生は一人もいなかった。

6月9日(水)

今日も駐輪場の前に立ってみた。昨日、大会議室前に寄せた自転車は、そのまま残って

いる。また、正確に把握していないが、昨日、道路に放置されていた自転車もほぼそのままだったと思う。つまり、朝の現状としては、大会議室前は0台、駐輪場前の道路に6台ということになる。

今日は、道路に昨日から放置されていると思われる自転車を見えやすいところに移動した。これによって、道路上に停めている自転車は全くなくなった。

8時40分頃から、駐輪場に立って、今日も学生さんたちにあいさつをした。どの子からも快くあいさつが返ってくる。これが9時まで続いた。今日、自転車の指導をした学生は一人もいなかった。勝利をかみしめて(?) 院生室に戻った。

### 3. 考察

(1)乱れているところは、より乱れる。

昨日は道路に自転車があった。今日はなかった。この違いは大きいと思う。やはり乱れているところには人間の規範意識も甘くなって「まあ、いいか」という意識が働いてしまう。

話は少し飛躍するかもしれないが、以前(といってもだいぶ昔になるが)東京ディズニーランドに行った。そこでは、あちらにもこちらにもほうきとちりとりを持った作業員がいて、担当区域を常に清掃している。ですから、地面には空き缶一つ、たばこの吸殻一つおちていない状態をキープしている。これも人間の規範意識を考えた環境整備作戦だと思う。ポイ捨てるには、よほどの勇気がいるのである。

また、学校においてもこのような例がある。学校で生徒が壁を壊してしまった。どうするか。みせしめのためにほっておくのがいいのか、間髪をいれず、修理するのがいいのか。答えは後者である。壊れているところをそのままにしていると生徒に学校側の姿勢が見られてしまうことになり、学校を維持するのに毅然とした態度を見せ、加害の生徒がわかればその生徒にやらせ、どうしてもわからない場合は修理する。

ゴミもそうである。生徒が窓から捨てるゴミだらけの学校があった。ある教員は毎日毎日窓下のゴミを拾い続け、ついには生徒はゴミを窓から捨てなくなった。ゴミを窓から捨てるのはもちろん悪いことであるが、それに立ち向かうのは、やはり毅然とした態度が必要である。

以上のことから、自転車を乱れたまま、看板で駐輪禁止を訴えてもあまり効果がなく、しばらくの間は、止められた場合は撤去し、朝はクリーンな状態を保つことが求められると感じた。

(2)人と人とのふれあいを大切にしたい指導

今日、気持ちよかったのは、自転車の止め方について、ただの一度も言わないですんだことである。私が2日連続で立っていたこと、それに道路に一台も停めていなかったことなどの条件も多いが、こうやって朝に学生達にあいさつをするということも、とても重要ではないかと感じた。

この大学に来る学生さんたちは、頭の優秀ないい子達ばかりである。教職員が一丸とな

って、朝のあいさつに限らず、声がけをしていくことが大切だと感じた。

### (3)駐輪場の早期確保

駐輪場に停めることのできる容量が通学自転車に対してやはり少ないと思う。また、私が朝みたところ、けっこうな台数が停まっており、それほど朝早く来る学生が多いとも思えないので、たまたまか、ずっとかわからないが、置きっぱなしになっている自転車も多いと思われる。

したがって、忙しい中とは思いますが、もう少し現状の把握をし、駐輪場のキャパシティーに対してどれだけ自転車があるのかを明確にする必要があると思う。

大学にとっての主人公は「学生」である。学生の学ぶ環境の整備には最優先で取り組んでほしいと思う。

それまでの措置としては、理科棟と池の前や、情報処理センター下の芝生を整地すると、キャパシティーの問題は暫定的に解決すると思われる。もちろん、看板を出して、明示することは必要である。

## 4. 最後に

大学も専門的知識を学ぶ場であると共に人間教育の場である。学生、事務方、教官がより一層お互い信頼し合える関係を築くためにも、コミュニケーションをとっていくことも大切だと思う。

職員の皆さんも交代で、朝、キャンパスに立ち(ネームプレートもあった方がいいなあ。私も顔はわかって何の先生だかわからない先生がいっぱいいる) 学生を迎えることができたなら、今以上にさわやかな一日のスタートを切れると確信する。

